

「保育内容等の自己評価」のための新チェックリスト 保育士篇

2025年度

自己評価チェック内容	
1 保育の理念・保育観	
1-1	あなたは全ての子どもについて、一人ひとりの存在と人権を尊重していますか。
1-2	児童福祉法の理念に基づき、子どもの最善の利益を考慮して、子どもの生活と健全な発達を保障することが保育園の重要な使命だと理解していますか。
1-3	あなたは、日頃から「保育所保育指針」をよく読み、その理念を理解した上で、保育内容や保育方法を考えるときのガイドラインとしていますか。
1-4	あなたの保育が、子どもの生涯の基礎を培う極めて大切な役割を担っていると認識して保育していますか。
1-5	あなたは、保育所保育は養護と教育が一体となって行われている、ということ意識して保育していますか。
1-6	今日の保育園には、入園している子どもの保育だけでなく、広く地域の子育て支援をする社会的役割があることを認識していますか。
1-7	あなたは、子どもに文化や生活習慣、考え方が多様であることを知らせ、それらを尊重する心を育てるよう努めていますか。
1-8	子どもの性差や個人差にも留意しながら、固定的な性別役割分業意識を植え付けることのないように配慮していますか。
1-9	あなたは、日頃から、子どもに身体的苦痛を与えたり、人格を辱めるなど精神的苦痛を与えることがないようにしていますか。
1-10	あなたは、個人情報の保護に配慮し、子どもやその家庭についての秘密を正当な理由なく漏らすことがないようにしていますか。
1-11	あなたは、「子ども・子育て支援加速化プラン」の4つの柱をもとに、子育ての支援が拡充していることを知っていますか。
1-12	様々な特徴を持つ子も持たない子も、一人ひとりのありのままの姿を受けとめ、すべての子どもが健やかに成長することを願って保育をしていますか。
1-13	育児の考え方について保護者とあなたが食い違っているとき、先ず相手の気持ちを受けとめ、話し合い、その保護者の立場や考え方を理解するよう努めていますか。
1-14	子どもの家庭状況は多様だという考えの上で、今、その子に何が必要かを見極め、それぞれにとって適切な援助をしていますか。
1-15	子どもが熱中しているときは、その時の保育の内容や流れに変更が生じても、危険のない限りその活動を見守るなどの柔軟性を持っていますか。
1-16	あなたは、子どもと一緒に思いきり体を動かして遊ぶことの重要性を理解し、楽しんでしていますか。
1-17	あなたは、一人ひとりの子どもに目が行き届いていたか振り返り、これからの保育の課題を見つけることができますか。
	合計
	17項目

2 保育の内容

1)保育計画・指導計画

2-1	あなたは、指導計画を作成するとき「保育所保育指針」を読み、参考にしていますか。
2-2	あなたは、保育園の方針である保育計画をもとにして、指導計画を作成していますか。
2-3	保育には指導計画（年・月・週・日案など）の作成という、あらかじめ見通しを持った計画性が必要だと思いますか。
2-4	あなたの月・週案などには、教育的側面（五領域の視点）だけでなく、養護的側面（基礎的事項）もしっかりと盛り込まれていますか。
2-5	あなたは、指導計画を作成するときに、地域の実態や保護者の意向・希望などを考慮していますか。
2-6	子ども一人ひとりの発達の姿や興味の対象の実態を把握して、月・週・日案などを作成していますか。
2-7	あなたの月・週・日案などには、子どもの意欲を誘う環境構成が十分工夫されていますか。
2-8	複数担任の場合、よく話し合ってお互いの考えを十分に理解した上で、月・週・日案などを立てていますか。
2-9	園の保育理念や方針・目標、あなたの作成した年・月・週・日案などのねらいや内容を、保護者に分かるように説明できますか。
2-10	あなたは、季節感や日本の伝統的な行事などを指導計画のなかに取り入れるようにしていますか。
2-11	月・週・日案などが、実際の子どもの姿、興味・関心に合っていたかという視点から自分の保育を評価・反省していますか。
2-12	月1回以上、自分自身の指導計画の点検・評価を行い、その結果を次の指導計画に活かしていますか。
合計	
12項目	

2)乳児保育

2-13	あなたは、一人ひとりの子どもの出生時の状況、その後の発育・発達など、生育歴を細かに把握するとともに、保護者の状況などの背景も理解していますか。
2-14	哺乳瓶の消毒、調乳、沐浴の仕方など基本的な事柄や、子ども一人ひとりの健康状態などを、随時職員相互で確認し合っていますか。
2-15	授乳について、その子が欲しがる時にやさしく抱いて微笑みかけ、ゆったりと飲ませていますか。
2-16	離乳食は、家庭と連携をとりながら、一人ひとりの発達過程やその日の体調に合うように工夫していますか。

2-17	その子にとって初めての食品を食べさせたときは、皮膚や便性などに異常がないか観察していますか。（※家庭で2回以上食べている食品）	
2-18	おむつ交換は「きもちいいね」などどやさしく声をかけたり、マッサージしたりして、排便の回数、便性を把握して臀部を清拭していますか。	
2-19	赤ちゃんの目の動き、泣き声、しぐさ、片言をメッセージとして受け止め、ほほえみ、要求に応じる言葉をやさしく返していますか。	
2-20	子どもを外気に触れさせたり、適度な戸外遊びをさせたりして、健康増進を図るようにしていますか。	
2-21	喃語には、ゆったりと応えたり、やさしく話しかけたりして、発語の意欲を育んでいますか。	
2-22	絵本を見せながら、その子の指さすものに答えたり、やさしい言葉を添えたりして、あなた自らもそのやり取りを楽しむことができますか。	
2-23	あなたがどんな状態にあるときにでも、赤ちゃんの笑顔やしぐさをかわいいと感じることができますか。	
2-24	あなたは、自分の服装の色合い、頭髪・爪などの清潔や、室内の清掃にも配慮していますか。	
2-25	乳児を寝かせる場合には、仰向けに寝かせるようにするとともに、睡眠中の姿勢、かけぶとん、呼吸等の確認をしていますか。	
2-26	一人ひとりの生活リズムや欲求、その日の体調等を把握した上で、睡眠の時間を調節したりする柔軟性を持ち合わせていますか。	
2-27	電子連絡帳を活用するなどして、保育園以外での子どもの様子も把握するように努めていますか。	
	合計	15項目

3) 3歳未満児保育（1・2歳児保育）

2-28	大勢の子どもを保育するときでも、あなたを独占したがるその子の気持ちも十分に満たすなど子どもの背景に配慮しながら、個別対応の努力や工夫ができていますか。	
2-29	「できない、やって！」と甘えてくるときは、その都度、その子の気持ちを受け止め、一人ひとりの発達に応じて要求を満たす援助をしていますか。	
2-30	あなたは子どもの「これなに？」、「どうして？」などの繰り返しの質問に、忙しいときでもできるだけその都度応えようとしていますか。	
2-31	探索活動が十分行えるよう、安全にはよく気を配りつつ、環境を整えたいうえで、子どもが要求する行動を容認できますか。	
2-32	着替えや食事などの時には、その子に応じた手助けやことばかけをしながら、時間を要しても自分からしようとする気持ちを大切にしていますか。	
2-33	食べ物をこぼしたり汚したりしながらも、子どもが自分で食べる意欲を育てるために、楽しい雰囲気ですごせることを第一に考えていますか。	
2-34	子どもがおもちゃの取り合いなどでぶつかり合うとき、危険のないよう配慮しつつ、子どもの発達の程度や心の動きを考えながら、しばらく見守ることができますか。	

2-35	「おや、何だろう?」、「これで遊ぼう」と好奇心や興味を引き起こす材料や素材、場を用意する心配りをしていますか。
2-36	散歩の時、保育者も一緒に楽しみながら、花や葉、虫や動物などを見つけたりして、子どもとともに自然物や動物への興味・関心を持つことを大切にしていますか。
2-37	子どもと会話をするとき、その子の目線に合わせて話をゆっくり聞いて、子どもの話したい気持ちや伝わった喜びを共感していますか。
2-38	あなたは、自分の表情に配慮しながら、子どもにわかるように、ゆっくり、はっきり、おだやかに、具体的な短い言葉で語りかけていますか。
2-39	子どもに「絵本を読んで」、「遊んで」と言われた時に、場面に応じて「待って」と言った場合にも、その理由を伝え、その子の気持ちに応えていますか。
2-40	歌を歌ったり、リズムによって体を動かすとき、あなたは歌や動きを子どもに合わせて、一緒に楽しむことができますか。
2-41	わがままで「いやだ」という子どもの内面に配慮しながら、その子の気持ちを肯定的な方向に向けるようにしていますか。
2-42	自分の思いどおりにならず、怒ったり泣いたりする子どもに対して、丁寧に話して聞かせたり、気持ちを切り替える時間をとり、ゆったりと待つことができますか。
	合計
	15項目

4) 特別な配慮や支援を必要とする子ども（障がい児）の保育

2-43	保育園は、障がいを持つ子どもでない子ども「共生」「共有」の観点から、当たり前のこととして保育するという考え方にあなたは共感しますか。
2-44	障がい児が入園した時、安全管理や個別の対応などその子を受け入れるための保育を、積極的に進めようと考えていますか。
2-45	障がい児について素朴な疑問をなげかけてくる子に対して、必要に応じて障がいの性質や行動の困難さなどについて、丁寧に説明していますか。
2-46	あなたは、障がい児もそうでない子ども互いのよさを感じとり、楽しく交流できる雰囲気づくりに励んでいますか。
2-47	あなたは、障がい児の世話をし過ぎる子どもや、逆に無関心な子どもの存在に気づき、それへの配慮を心がけていますか。
2-48	あなたは園内研修（ケース会議）やクラス内の会議などで積極的に議論することにより、園内の障がい児への理解を深めるように努力していますか。
2-49	あなたは、障がい児により適切な保育をするために、様々な専門機関等と連携をしていますか。（連携をしたいと考えていますか。）
2-50	障がい児の保護者が、様々な苦しみや悩みを抱えてきていることを、触れ合うなかで感じることはありませんか。
2-51	日常的に障がい児の保護者との話し合いの場等を設けて、不安や焦り等悩みを抱えている保護者の気持ちの援助に心がけていますか。

2-52	就学に向けて相談する障がい児の保護者がいるとき、保護者が自分で方向を決めていけるように相談に応じたり、情報提供をしたりしていますか。
2-53	障がい児を受け入れる園の方針を、健常児の保護者に理解してもらえるように努力していますか。
2-54	障がい児保育をより豊かなものにするために、子どもたちにふさわしい環境・物的環境（遊具等）を整えるなどの努力をしていますか。
	合計
	12項目

5) 行事	
2-55	あなたは、園が見直しを行いながら実施している「行事」について、その意味について十分に考えてから、保育の中に組み込んでいますか。
2-56	「行事」を保育に取り入れるときには、それが子どもの健やかな育ちにつながる意味をもつことを意識していますか。
2-57	みんなで楽しむとともに、一人ひとりが十分に自分の力を発揮できるような「行事」となっていますか。
2-58	あなたは、子ども達にとってその季節や時期にしか味わえない有意義な体験となるよう「行事」に工夫を凝らしていますか。
2-59	子ども達が期待を持って「行事」に参加できるよう、年間計画の段階から子どもの主体性を尊重する保育場面を用意していますか。
2-60	「行事」に参加することを嫌がる子どもには、その気持ちをくみ取って、行事の中でその子が活動できる場面を用意していますか。
2-61	保護者が参観する「行事」のときには、保護者の評価にあまりとらわれず、日常の子どものありのままを見てもらう気持ちのゆとりをもっていますか。
2-62	あなたは、「行事」が、子どもの生活や遊びから発展していくように、日常の保育の積み重ねの結果となるよう心がけていますか。
2-63	保護者や地域住民にも参加してもらうような「行事」については、園だよりや広報紙・連絡帳等で事前にその趣旨を説明し、理解や協力を要請していますか。
2-64	子どもも保護者も期待感を持つ「行事」には、あなた自らも喜んで、余裕をもって参加できていますか。
	合計
	10項目

6) 延長保育	
2-65	長時間にわたる保育を受ける子どもには、特に畳やカーペットで寝転ぶことができるようにするなど、家庭的雰囲気配慮していますか。
2-66	次々にお迎えが来るなかで、「ママ来ないね」のつぶやきに対して、その子の気持ちを受け止めて、安定した気持ちで待つことができるような適切な対応をしていますか。

2-67	あなたは延長保育で、一人ひとりが好きな遊びができるように配慮していますか。
2-68	延長保育の子どもには、担任でなくても、園での様子が保護者に十分伝わるよう、連絡帳やおたよりを活用していますか。
2-69	延長保育の時間帯には、とりわけ異年齢の子ども同士で遊べるような工夫をしていますか。
	合計
	5項目

7) 3歳以上児保育

2-70	子どもが緊張したり、不安を感じたときには温かく受け止め、親のようにやさしく接するなど、家庭的な雰囲気づくりに心がけていますか。
2-71	あなたは、子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるように、いつも心を開いて、信頼関係をつくる努力をしていますか。
2-72	子ども一人ひとりの背景や保護者の状況を理解し、受けとめて、安心して甘えられるように、その子の気持ちに寄り添い、支えていますか。
2-73	あなたは、今まで大事に飼っていた小動物が死んだとき、子どもと悲しみを共有し、生命の大切さを伝えていますか。
2-74	子どもが自己表現できるように、その時々々の要求や気持ちを読み取り、どの子どもも自分が愛されていると実感できるように接していますか。
2-75	子ども一人ひとりの必要に応じて、心も体もゆったりとくつろげるための空間と時間をつくり出す努力をしていますか。
2-76	少しでもふだんと違う具合の悪そうな子どもに気づいたら、自分の体の不調を訴えられるように、やさしく問いかけていますか。
2-77	日常生活でのしぐさをよく観察して、行動や身体の異常などの早期発見に努めていますか。
2-78	季節感を味わえる環境を整えたり、心地よい音楽を流すなど、和やかにくつろいで過ごせる室内の環境づくりを心がけていますか。
	合計
	9項目

3 保健活動・安全管理

3-1	身長・体重等の測定や医師の診断から、発育・発達の状態を把握して、それを保護者や他の職員に伝えるとともに、日常の保育に生かしていますか。
3-2	その子の体調の些細な変化や異常に速やかに対応するために、日常的な体調や機嫌の状態をつかむよう努めていますか。
3-3	あなたは、子どもに何らかの異常が見つかった場合、より適切な処置ができるように、嘱託医の指導を受けたり、調べたりしながら日頃から学びを深めていますか。

3-4	あなたは、健康観察で子どもの健康状態をある程度判断することができますか。
3-5	子ども一人ひとりの体調をしっかり把握し、食事の量や内容を変えるなどの配慮をしていますか。
3-6	あなたは、睡眠中の子どもの顔色、呼吸の状態を観察するなど、SIDS等への予防に努めていますか。
3-7	アトピー性皮膚炎・食物アレルギー等の子どもに対して、医師の指導のもとに適切な対応をしていますか。
3-8	あなたは、日頃から虐待の早期発見を心がけ、虐待が疑われる場合には、園長に伝えるなどの防止策を考えていますか。
3-9	備品棚やピアノなどの転倒防止、その他事故が起こらないように、あなたの保育室内外の安全点検を、毎日怠らないように努めていますか。
3-10	園庭にガラスの破片など危険なものがないか調べたり、砂場を掘り起こして整えるなど、安全な環境づくりの努力をしていますか。
3-11	地震等の災害や火災に備え、積極的に避難訓練等に参加し、非常災害時にあなたが 何をしなければならないか理解していますか。
3-12	登降園時の事故防止について、保護者が何を注意すればよいか、あなた自身が説明することができますか。
3-13	そのまま見過ごしたら明らかに危険な行動には、理由を説明して「いけません」、「やめなさい」などの言葉ではっきりと制止していますか。
3-14	不審者が侵入した場合に備えて、子どもの安全を確保するための対応策を日頃から 心がけ、職員間で話し合ったり訓練をしたりしていますか。
	合計
	14項目

4 保護者・地域社会・関係機関との連携

4-1	園での様子を伝え家庭での様子を聞かなかで、子どもの育ちを保護者とともに、考え、喜び合うことができますか。
4-2	その日の子どもの健康状態や興味を持った遊びなど、必要に応じてお迎え時に保護者に丁寧に伝えるように努めていますか。
4-3	保護者から突然、お迎えが遅くなると連絡があった時にも、快く応対するよう努めていますか。
4-4	保護者が育児の悩みや心配事を話してみたくなり、一緒に考えてくれる存在であると思えるよう、あなたはこちらからすすんで触れ合うことを心がけていますか。
4-5	たとえあなたの保育に批判的な保護者であっても、対立せずに受容し、意見や要求を聞こうとする姿勢が持てますか。
4-6	あなたは、保育に関する保護者の考えや提案を積極的に聞き、保育の流れの中で適切と思うものについては、園長等と話し合ったうえで受け入れるよう努めていますか。
4-7	保育園が、保育参観だけでなく時には保護者に保育参加（保育に直接加わる）をしてもらう方針を決めた場合、協力できますか。

4-8	あなたは、連絡帳を、保護者がその内容をよく理解でき、楽しみにするような書き方をしていますか。
4-9	保護者同士が相談相手になれるよう、お互いをよく知り合う機会を多く設ける努力をしていますか。
4-10	地域の人たちによるボランティア活動などをどのように保育に組み入れたらよいか職員間で話し合い、あなた自身もきちんとした見通しを持っていますか。
4-11	老人会、町内会など地域組織と連携するとき、保育士としてどういう役割を担うべきか、考えたことがありますか。
4-12	放課後遊びに来る学童や卒園児にも、園の子どもと一緒に仲間に入って楽しく遊べるような配慮をしていますか。
4-13	あなたは、保育園が地域の中学・高校の生徒との交流をしたり、実習生を受け入れるときに、めんどくがらずに指導することができますか。
4-14	散歩や行事などで、子どもたちが地域の人々と触れ合う機会を持つようにするとともに、気持ちよくあいさつを交わしていますか。
4-15	地元の公共機関を利用するなど、地域の人々にかわいがられて、子ども達が豊富な 社会体験を得られるようにしていますか。
4-16	公園などの公共の場を使用した後は、あなたは子どもたちと一緒に清掃するなど、気を配っていますか。
4-17	あなたは言葉が通じない外国人に、尻込みしないで身ぶり手ぶりやIT機器を利用して対応できますか。
合計	
17項目	

5 地域の子育て支援	
5-1	あなたは、日頃の保育内容、子どもたちへの保育方法のすべてが、地域の子育て支援につながることを自覚していますか。
5-2	あなたは、保育園には子育て相談などの「地域の子育て支援」という役割が求められていることを受け止め、自分も積極的にかわりたいたいと考えていますか。
5-3	あなたは、相談の基本原則（受容・相互信頼関係・個別性・自己決定・秘密保持）について理解し、子育て相談の実践に生かしたいと考えていますか。
5-4	あなたは、本来業務の保育に支障がない限り、電話相談などの子育て支援を行いたいと思いますか。
5-5	あなたは、子育て相談を実施する際に連携すべき機関等（保健センター・児童相談所・福祉事務所・医療機関等）の機能についてよく知っていますか。
5-6	あなたは、子育てサークル・子育てボランティアの育成・支援に関心があり、勤務園が実施するときには、協力するつもりですか。
5-7	保育園が発信元になって、園の保護者以外にも子育ての大切さや喜びを伝える役割を担っていることを理解していますか。

	合計	7項目
--	-----------	------------

6 保育園の職務・役割分担		
6-1	園長や主任、主担任の指示がどういう意図で出されているかわからないとき、あなたは質問をしたり意見を言ったりできますか。	
6-2	登園を嫌がるが続くなど、問題を感じたとき、あなたは園長や主任、同僚などに、その原因や対策のしかたを相談していますか。	
6-3	あなたは、職員会議や未満児会議、以上児会議などで必要と思う質問や意見をはっきり発言することができますか。	
6-4	栄養士など保育士以外の職種の人たちが保育にかかわるとき、その人たちへの気配りや協力関係に配慮するとともに、保育士としてのあなたの役割がなんであるか理解していますか。	
6-5	あなたは、保育士として、他の職種の職員や非常勤の職員にどんな役割を果たしてほしいか、具体的な期待をもっていますか。	
6-6	あなたは、欠勤した日の出来事や連絡・注意事項は、自分から尋ねて理解するなど、職員間の連携に努めていますか。	
6-7	あなたは、自分のクラスの教材や備品を、責任をもって毎日点検・管理していますか。	
6-8	あなたは、たとえ自分のクラスのものでなくても、教材・教具などの管理が不備であれば、自らすすんで整えることができますか。	
6-9	あなたの本来の業務以外に保育園にかかわる仕事を頼まれたとき、それも職務の一端と考え、責任をもって引き受けていますか。	
	合計	9項目

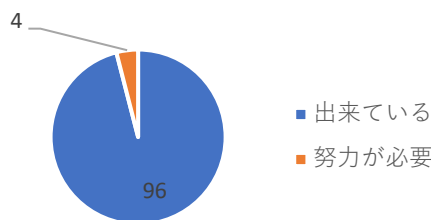
7 保育士としての資質向上（研修・研究活動）		
7-1	あなたは、保育士としての責務と誇りを自覚して、人間性と専門性の向上に努めていますか。	
7-2	あなたは、自分の保育を振り返り、問題点や課題を見つけることができますか。	
7-3	自分の保育に対する同僚や上司からの批評や意見を、感情的にならず謙虚に聞き、時には反省することができますか。	
7-4	保育をする中で生じた疑問や悩みを、同僚や上司にわかるように説明することができますか。	
7-5	あなたは、その日の子ども一人ひとりの活動や姿を、しっかり記録に留めることができますか。	

7-6	あなたは、どのような子どもについても、一人ひとりの課題をみつけ、ケーススタディーをすることができますか。
7-7	あなたは、保育の悩みや疑問を解決するために、研究・専門書を見つけて、そこから学ぶことができますか。
7-8	あなたは、他のクラスの保育について、疑問や感想・意見を、お互いの向上のために、言葉に配慮しながら素直に述べることができますか。
7-9	あなたは研修で得た内容・成果は、園の職員にわかるように丁寧に説明し、意見交換をするために役立てていますか。
7-10	あなたは、積極的に研究グループやサークルに参加して独自に勉強していますか。
7-11	あなたは、研修会の機会があれば、自費でも参加したいと思いますか。
7-12	あなたの保育実践について、園長はじめ他の職員が把握できる保育日誌などの記録を書けていますか。
	合計
	12項目

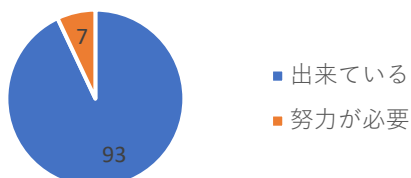
2025年度実施した保育士及び看護師の課題内容・分析・総評

●結果

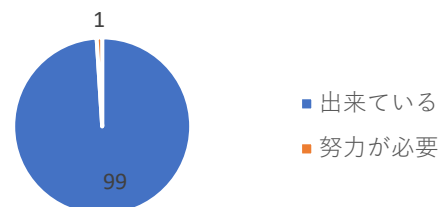
1 保育理念・保育観



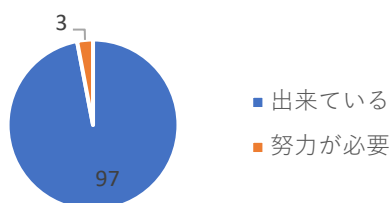
2 - 1 保育内容



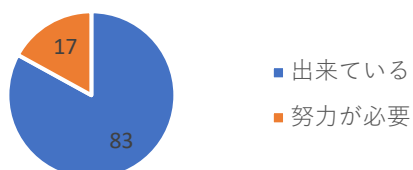
2 - 2 保育内容



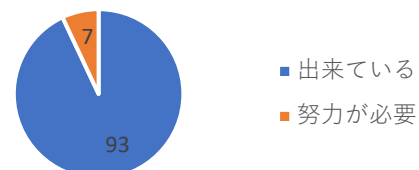
2 - 3 保育内容



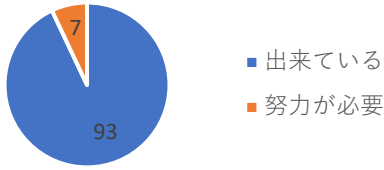
2 - 4 保育内容



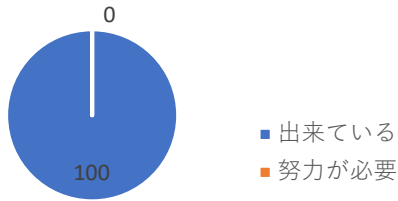
2 - 5 保育内容



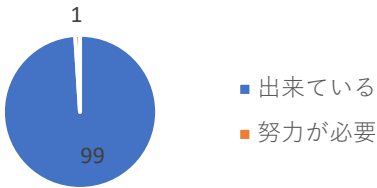
2 - 6 保育内容



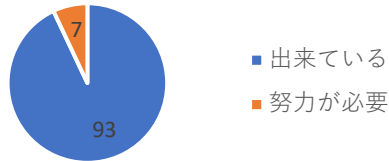
2 - 7 保育内容



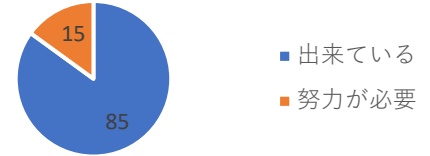
3 特別な配慮や支援



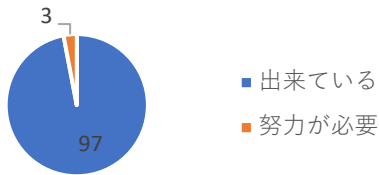
4 行事



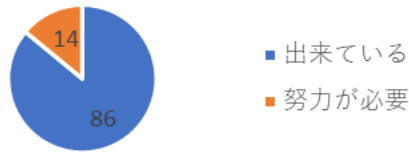
5 地域の子育て支援



6 職務、役割分担



7 保育の質の向上



●課題内容

〔1-11〕 あなたは、「子ども・子育て支援加速化プラン」の4つの柱をもとに、子育ての支援が拡充していることを知っていますか。

〔2-5〕 あなたは、指導計画を作成するときに、地域の実態や保護者の意向・希望などを考慮していますか。

〔2-52〕 就学に向けて相談する障がい児の保護者に対して、保護者が自分で方向を決めていけるように相談に応じたり、情報提供をしたりしていますか。

〔2-54〕 障がい児保育をより豊かなものにするために、子どもたちにふさわしい環境・物的環境（遊具等）を整えるなどの努力をしていますか。

〔4-10〕 地域の人たちによるボランティア活動などをどのように保育に組み入れたらよいか職員間で話し合うとともに、あなた自身もきちんとした見通しを持っていますか。

〔5-5〕 あなたは、子育て相談を実施する際に連携すべき機関等（保健センター・児童相談所・福祉事務所・医療機関等）の機能についてよく知っていますか。

〔7-9〕 あなたは研修で得た内容・成果は、園の職員にわかるように丁寧に説明し、意見交換をするために役立てていますか。

〔7-10〕 あなたは、積極的に研究グループやサークルに参加して独自に勉強していますか。

●分析

1. 保育の理念・保育観について

・こども家庭庁「子ども・子育て支援加速化プラン」により、さらに新設、拡充する制度をしっかりと把握することに努め、保護者対応時にはこのことを基に、保護者を支える役割を担っていきたい。また、本園では「こども誰でも通園制度」の実施は行っていないが、園独自の事業である一時預かり事業を積極的に行っていく。

2. 保育の内容について

・保育所保育指針に掲げられているように「地域の子育て支援」は保育所の役割でもある。地域の方との交流や地域資源の活用は多いに取り組んでおり、保育の充実につながっていると見える。ただし、地域からの要望など受容する機会も少なく、次年度以降、校区の会議等を有効に活用する必要があると痛感した。

・支援が必要な園児の受け入れは行うものの、そのお子様にとってより適した環境であるとは言い難い。しかしながら、入園決定後はそのお子様、保護者様と丁寧な話を進め、少しでもよりよい環境づくりを行ってきた。その点においては継続するとともに、すべての人が平等に保育・教育をうける権利を尊重できる園を目指す。

3. 特別な配慮や支援を必要とする子どもの保育について

・今年度も嘱託医（園医）から感染症の流行時期や地域の安心安全について連絡が入るなど対応の共有や指導を受ける機会をいただいた。園からの相談という機会は瞬時に、また検診時に行うなどした。専門的見解を職員で共有し、実践することが安全な保育につながったといえる。

・療育機関との連携については園内での療育技術を高めるため、園長、主任保育士、担当保育士を中心に相互の訪問を実施した。療育先と一体となり支援することが園児の発達に大いに意味をもつことを再確認し、さらに連携を深めていくことが必要であると痛感している。

4. 行事について

・2025年度は0歳児から5歳児クラスの完成年度でもあり、行事の見直しが必要であった。園内で行なってきた行事のあり方、園児（特に以上児）にとって十分な環境であるかなど課題に向き合ってきた。まだ試行錯誤中であるが引き続き、よりよい保育、環境の中で行事を行なっていきたい。

・地域の方との交流会を3回実施した。昨年度の振り返りをもとにどのような方法であれば地域のみなさまに負担がなく、喜んでいただけるかを考え、参加方法を変更した。そのことによって継続した交流が可能となった。地域の方とのふれあいの機会は今後もぜひ続けていきたい。

5. 地域の子育て支援について

・一時預かり事業では定期的にご利用するご家庭があった。その中で、本園を3歳児で卒園されたお子様の利用があった。卒園後、本園の事業をご利用いただけたことはうれしいことであった。いつでも誰からでも頼られる園であり続けたい。

・子育て支援事業の一つ「保護者フリートーク」は定着し、保護者間の関係が良好に構築されてきたことを実感する。また保育士の保護者理解の機会になっており、今後も継続していきたい。

・地域の子育て支援の一つとして出前保育を行ってきたが、民生委員様より回数を増やすことはできないかと提案があり、快諾した。2026年度は5月と11月に出前保育を実施する。

6. 保育園の職務・役割分担について

・就学前までの保育を行うようになって2年目。0歳児から5歳児までの継続した保育カリキュラムの見直しや小学校との架け橋期プログラムなど保育内容の見直しを進めているところである。

・ICT化が進む中ですべての職員が柔軟に対応できているとは言い難い。現在使っているシステムをもっと有効に効率的に活用することが必要で、業務軽減につながると考える。併せて、保護者からのニーズや社会に求められる新システムなどの導入も検討していく。

・園児、発達など十分に考慮しながら、行事の見直しを継続して行っていく。

7. 保育士としての資質向上について

・保育士のキャリアアップは保育の質の向上につながり大切なことである。業務内での研修参加はあるものの独自での参加は一部の職員に留まっている。その理由として保育士の多忙さが要因とも考えられるため、まずは園内で毎月実施している研修会参加の機会を確保し、学ぶ機会を増やしていくことが必要であると考えている。

・学んだことを保育に活かし、周囲の保育士にとっても刺激のある保育となり吸収していくような職場を目指し、互いに高め合うことを大切にしていきたい。

●園長総評

2025年度4月の在園数48名から年度途中には50名を超え、年度末には57名となった。各クラスの定員もほぼ定員数と等しくなり、安定した園児数の確保となった。今年度を0歳児から5歳児の完成年度と捉えており、次年度以降は0歳児と1歳児クラスの入園者を主に受け入れていき、60名を目指していく。

年度末の保護者アンケートの中に、「愛のある保育を行ってきたことによる園児数の増加である」と大変喜びとなるご意見があった。少人数のよさを最大限に活かし、丁寧に園児、保護者に寄り添う保育を継続していきたい。

保育の充実として、今年度初めて3歳児4歳児5歳児クラスは学院の大学体育館を毎週1回お借りし、運動遊びを行った。園児数、以上児クラスの園児数増加によって、園庭の狭さが課題でもあったが、学院を活用することで、園児の運動能力をより育むことにつながったといえる。また、交通ルールが身についたり、地域の方との交流があったりと新たな環境の工夫から保育も充実し、園児の発達にも大きな影響を与えたといえる。

保育内容において、「保育カリキュラム」や「アプローチカリキュラム」、小学校へつながる「架け橋期プログラム」の見直し、作成を行った。保育所保育指針を念頭に置きながら、すべてが総合的にあるべきものであることを理解し、保育運営にあたることを再確認することができた。保育士のさらなる保育技術が求められると考える。

職員自己評価の中から「担当制保育」「保護者フリートーク」等を通して、保護者理解を得ていると実感する声が聞かれた。日々の短い時間であるが、丁寧に保護者を受容し共感することで保護者と保育士との間に信頼関係が構築されていると実感する。保護者理解は子ども理解と深く関わり、子どもの健やかな成長に欠かせないものであると感じる。保育士のソーシャルワーク技術もより磨いていくことが大切である。

少子化の影響を受けて園児数減少も不安視する。「本園の特色とはなにか」をもっと打ち出していくことが課題といえる。漠然とではなく、自信をもつ特色であり、魅力を活かした保育運営を行い、本園に安心してお子様を預けていただける園を築いていきたい。

保育園は2026年度に開園10周年を迎える。学院の100周年と合わせて、これまでの歩みを大切にしながら求められ、愛される保育園を目指して、未来に向かって一步一步、進んでいきたい。